

美しい森林づくり全国推進会議 社団法人 住宅生産団体連合会が担う 美しい森林づくりへの活動

「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体で、
住宅に関する調査・研究・提言・国際交流・情報提供を行っている社団法人 住宅生産団体連合会。

今回、情報管理部長の佐野孝雄氏におもな活動や
「美しい森林づくり全国推進会議」での役割などを伺いました。

**国産材の使用により、
わが国の林業が活性化する**

「私は山と森が大好きで、数年前に秋田と山形にまたがっている鳥海山へ行きました。その麓の水を飲んだら、甘くてすごくおいしかったです。ガイドさんの話によると、その水は五〇年前の雨水とのこと。このことによって自然と人間の共存、循環を感じましたね。それぞれの世代が自然の中でこのような体験することが重要だと思います。木よりも鉄やコンクリートの家の方が強い」という誤解の声を聞くことがあります。早く木の復権を願いたいですね。国産材使用を呼びかけた際、需要者側からの意見として出るのは、安定供給、コスト、品質。この三つさえ満たしてくればいくらでも使える、と。この問題については長期的に取り組んでもらいたいと思います」と話す社団法人 住宅生産団体連合会の情報管理部長の佐野孝雄氏。

社団法人 住宅生産団体連合会は一〇の団体で構成されています。今回はその団体の中で、木造軸組工法住宅の普及に積極的に取り組んでいる社団法人 日本木造住宅産業協会（会員数は四〇六社）の活動をご紹介します。社団法人 日本木造住宅産業協会は平成一九年五月に「環境行動計画」を制定し、木造軸組住宅の建設を通じて環境負荷低減に貢献した取組を行っています。



情報管理部長の佐野孝雄氏

「日本は国土の約七〇％が森林であり、木材はわが国の世界に誇れる資源といえます。現在は諸般の事情により八〇％近くを輸入に頼っていますが、環境を考慮すれば国産材を使用するのが望ましいんです。国産材の使用により、わが国の林業が活性化し、森林の手入れも良くなり、その結果さらに国産材が使いやすいくなる、といった好循環を推進していく必要があると思います」（社団法人 日本木造住宅産業協会・上田直之氏）

今春、社団法人 日本木造住宅産業協会が発表した「木造軸組工法住宅の環境行動に関する調査報告書」によると、国産材を使用



国産材を 100%使った建物（※新産住拓株式会社が建築）

している会員企業は四四%に達していますが、一方、国産材を使用していない企業の回答としては、①価格が高い②供給が不安定ということがあがっています。

「最近では積極的に自社の住宅に国産材を採用する企業が増えています。熊本県の新産住拓株式会社では、独自の安定供給システムを構

築し、S G E C（緑の循環認証会議）の認定企業となりました。今後、こういった企業がどんどん増えていくことを願っています」（上田直之氏）

社団法人 日本木造住宅産業協会では国産材に対する意識が高まるよう会員に対して定期的にアンケート調査を実施しています。ま

た、「地球にとってもやさしい木の家」という冊子を発行して、全国各地の小学校などに配布しています。

「木を伐ったらダメでしょ」という間違ったイメージを持っている人がまだまだ多いですね。木を伐つても有効に活用して、伐採した後は植林していけばいいです。若木の方がCO₂を吸収する量が多いですよ」といったことを冊子「地球にとってもやさしい木の家」の中ではマンガを交えて紹介しています。こういったことを小学生の時から知ってもらいたいと思っています。昨年は場所の都合で行えなかったのですが、毎年、協会の九州支部では「森のふれあい探検隊」として間伐・植林を一般公募の方と一緒に取り組んでおります。現在、協会の本部でも同様の計画を検討しています」（上田直之氏）

今後、社団法人 日本木造住宅産業協会では森林に対する取組、次世代に対する取組を積極的に行っていきたいと考えています。

社団法人 住宅生産団体連合会

略称・住団連は住宅に関する調査・研究・提言・国際交流・情報提供を行う団体で、平成4年6月に発足。低層住宅を建設する団体を中心ではあるものの、中高層住宅から住宅設備機器類関連にいたるまで、幅広い団体（※10団体）で構成されています。